NEWSLETTER RIEMAM
2020年１月号
No. 183
日本環境管理学会 会報

目次

＜１頁＞令和２年度大会のご案内～研究論文・実践報告を受付中！ ＜２頁＞募集要項 ＜３頁＞学術委員会からのお知らせ～「環境の管理」をNo.84から電子ジャーナル化します／令和２年度会費請求のお知らせ
＜４～５頁＞講演論文執筆要領 ＜６～７頁＞論文提出にあたってのご注意 ＜８頁＞発表申込書

令和２年度大会（令和２年度通常総会 第３３回研究発表会）のご案内

５月２２日(金)～２３日(土)、タワーホール船堀（東京都江戸川区）にて

研究論文・実践報告を受付中！ －３月16日(月)までー

日本環境管理学会の令和２年度大会を本年５月22日（金）・23日（土）の２日間、タワーホール船堀（東京都江戸川区）において開催します。通常の研究論文の募集に加え、今年も特別セッションとして**「若手研究発表セッション」**と**「ビルメンの現場セッション」**を設けます。会員の皆様のご発表はもちろん、若手研究者や現場スタッフの方々にも、広くお声かけをよろしくお願いします！

■ 若手研究発表セッション

「若手研究発表セッション」は、学部生・大学院生及び卒業・修了後数年以内の若手の研究発表を対象とした特別セッションであり、学生諸君が投稿した論文発表を、聴講した学生諸君による相互評価（ピアーレビュー）と聴講した学会会員による第三者評価を行います。評価は、発表内容、発表資料、発表態度、質疑応答などの面から行い、評価結果を総合的に勘案して、数件の優秀発表を選び、「若手優秀プレゼンテーション賞」として、賞状と賞金（図書カード）を贈呈します。多くの学生諸君が発表してくれることを期待しています。現時点では、23日（土）の午前中の開催を予定しています。

■ ビルメンの現場セッション

「ビルメンの現場セッション」は、論文形式の発表ではなく、ビルメンテナンスの現場で日々活躍されている皆様が、どのような工夫や技術開発によって、優良なメンテナンス成果を達成し、また、働きやすい現場環境を作りあげておられるかを、**自由な形式で発表**していただく場として設けました。

今年度はテーマ付きのサブセッションを設けています。エコチューニングをはじめとする**「省エネルギーへの取組」**とインスペクションをはじめとする**「清掃品質管理への取組」**の２つのセッションです。もちろん、この２つのセッションテーマ以外の取組みも大歓迎ですので、ふるってご投稿ください。

なお、この「ビルメンの現場セッション」での発表内容は、新しくビルメンテナンスの業務に携わることとなった、新入社員の方々や海外からの技能実習生がビルメンテナンス業務の実際を学ぶ場としても活用されることが期待されます。学会という敷居を感じることなく、気楽に発表して頂ければと思います。

このセッションの発表については、学会の学術委員会と事業委員会の委員が、取組内容、発表資料、発表態度、質疑応答などの面から第三者評価を行い、評価結果を総合的に勘案し、数件の優秀発表を選び「優秀発表賞（現場）」として賞状と賞金（図書カード）を贈呈します。現時点では、22日（金）の午後の開催を予定しています。

■ 記念講演は三橋博巳先生を予定

もちろん、例年どおり講演発表論文とポスターセッションも募集しております。ぜひとも、多くのご発表をお願いいたします。

なお、 特別セッションでは、自治体・民間ビルオーナーが温暖化対策に取り入れているエコチューニングについて、エコチューニング推進センター長である三橋博巳氏（本学会副会長）の記念講演を予定しています。

今回も、皆様のご参加をお待ちしております。

【募集要項】 ……日本環境管理学会　第 33 回研究発表会

【開催日】	令和２年５月２２日（金）～２３日（土）
【会場】	タワーホール船堀（東京都江戸川区船堀４ー１ー１） ３０３会議室
【開催趣旨】	環境管理に関心のある、あらゆる分野の人々に研究論文並びに技術報告等の発表の場を提供。
【募集内容】	①講演発表論文 ②若手研究発表論文 ③ビルメンの現場報告 ④ポスターセッション
【発表の採否】	＊最終的な発表の採否は、本学会学術委員会で決定しますので、予めご了承ください。 ＊発表の採否と発表区分については、4 月下旬にお知らせする予定です。
【応募資格】	原則として本学会会員としますが、会員以外からの応募も受け付けます。
【発表申込・原稿の提出】	４～５頁の記載を確認してください。原稿は６～７頁の注意事項を読み、できるだけＰＤＦで提出してください。
【提出期限】	令和２年３月１６日（月）必着
【発表形式】	１発表につき２０分程度（討論時間を含む）
【申込先・送付先】	〒113-0013 東京都荒川区西日暮里 5-26-7 クレセントビル４階 日本環境管理学会事務局 Tel.03-3802-7050　Fax.03-302-7051　E-mail：info@riemam.org

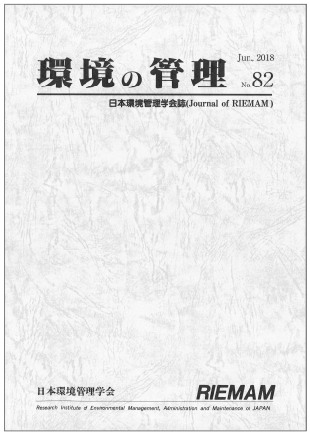
【講演論文等執筆要領と提出】 ……日本環境管理学会　第 33 回研究発表会

（１）講演発表論文	原則として未発表の調査研究とします。製品の宣伝等、学会の研究発表にふさわしくないものは受け付けません。「日本環境管理学会・研究発表会・学術講演梗概集執筆要領」に従って作成した講演論文と８ページの「研究発表会　発表申込書」に必要事項を記載したものを令和２年３月１６日（月）必着にてご提出ください。
（２）「若手研究発表セッション」への投稿	（１）の講演発表と同様に、「日本環境管理学会・研究発表会・学術講演公害集執筆要領」に従って作成した講演論文と８ページの「研究発表会　発表申込書」の「若手研究発表セッション」への申込みにチェックを入れたうえ、必要事項を記載したものを令和２年３月１６日（月）必着にてご提出ください。
（３）「ビルメンの現場セッション」への投稿	報告内容については、自由な形式で記述してください。「日本環境管理学会・研究発表会・学術講演梗概集執筆要領」に従う必要はありません。発表用のパワーポイントや現場での取組みの写真やその説明などをＡ４版６ページ以内に自由にまとめてください。なお、１ページ目の上部に発表内容を端的に表した表題と発表者のお名前と所属を記述してください。８ページの「研究発表会　発表申込書」の「ビルメンの現場セッション」への申込みにチェックを入れたうえ、「省エネルギーへの取組」もしくは「清掃品質管理への取組」を明記し、必要事項を記載したものと一緒に令和２年３月１６日（月）必着にてご提出ください。
（４）ポスターセッションへの投稿	ＡＯ版用紙縦位置使い、２枚以内に作成してください、ポスター発表の内容をまとめた原稿を、「日本環境管理学会・研究発表会・学術講演梗概集執筆要領」に従って作成し、８ページの「研究発表会　発表申込書」に必要事項を記載したものと一緒に令和２年３月１６日（月）必着にてご提出ください。なお、ポスターは発表当日持参し、指定の場所に掲示、発表してください。

学術委員会からのお知らせ

「環境の管理」をNo.84から電子ジャーナル化します

これに伴い、論文等応募規程と執筆要領を改訂しました



従来印刷媒体で発行しておりました日本環境管理学会誌（Journal of RIEMAM)「環境の管理」を、No.84から電子ジャーナル化することにいたしました。電子ジャーナル化することで、より多くの方に論文を読んで頂くことが可能になると考えております。

従来の紙媒体による場合、少なくとも３編の論文を掲載しておりましたが、残念ながら論文投稿が少ない傾向にあり、原稿採用決定日から学会誌の発行まで時間を要している状況が認められました。今後は、採用決定論文が１編でもある場合には、「環境の管理」の発行月に合わせて速やかに論文を公開できるようになります。

電子ジャーナルは学会ホームページの［環境の管理］セクションに置き、論文等のタイトルをクリックすることによって論文等の本文全文のＰＤＦを読める形にいたしました。

また、電子ジャーナル化を期に、論文等応募規程を改訂し、論文等の種類を、原著論文、総説・展望、技術ノート、質疑討論の４種類といたしました。

技術ノートは、例えば、ビルメンテナンスノートやビルマネージメントノート、環境管理ノート等を想定しており、現場における様々な取り組みを報告して頂くものと位置付けております。

論文等の応募者は原則として本会会員としていますが、技術ノートと総説・展望については、本会会員以外からの投稿も歓迎します。

◉「環境の管理」は３月、６月、９月、１２月、いずれかのタイミングで発行されます。（ただし、採用決定された論文等がない場合には発行いたしません。）
◉論文は「原著論文」「総説・展望」「技術ノート」「質疑討論」に分かれております。
◉論文等は論文審査小委員会により査読され、本会学術委員会により審査が行われます。（詳しくは「論文等応募規程」をご確認下さい。）
◉会員の皆様は投稿料が「無料」でございますので、積極的なご投稿をお待ちしております。

＜論文は随時受け付けております＞

【令和２年度会費請求のお知らせ】

日本環境管理学会

会員の皆様には本ニューズレターに同封し、令和２年度会費の請求書を送付させていただきました。年会費および振込先は以下のとおりです。お手続きのほど、よろしくお願いいたします。（総務委員会）

	正会員個人	正会員法人	特別会員	学生会員
年会費	10,000円	60,000円	50,000円	3,000円

銀行名	みずほ銀行　芝支店　（店番　０５４）
口座番号	普通　１６９９０５６
口座名義	日本環境管理学会（ニホンカンキョウカンリガッカイ）

日本環境管理学会大会・研究発表会・学術講演梗概集執筆要領

印刷の場合

Guideline for Preparing a Paper for the Annual Meeting of RIEMAM

【１行あける】

環境　一郎＊
Ichirou Kankyo

【１行あける】

keywords : RIEMAM, Environmental Management, submission of a paper
日本環境管理学会、環境の管理、論文投稿

【１行あける】

１．記述の方針

日本環境管理学会大会の研究発表会において学術講演を行うものは、この執筆要領に従って講演論文を作成し、提出しなければならない。

講演論文は、それ自体で調査・研究報告としての討論と保存に耐えられるものとし、調査・研究内容を明確に記述する。

各方面の分野の専門家や関係者が読むことを前提として、研究の目的、考え方、方法や手法、結論を記述する。

製品の宣伝・自己のPR等、学会の調査・研究報告として相応しくない論文は受理しない。

学術論文に関連した、既往の研究や調査報告を整理して掲載する。

２．原　稿

原稿は、パソコンまたはワードプロセッサを用いて作成し、印刷出力したものでなければならない。

手書きの原稿は受理しない。

原稿の頁数は、2頁または4頁とする。

所定の原稿用紙はないが、A4版白紙の片面に、左右に20mm、上下に25mmの余白をとり、5項並びに6項に示す字体や文字の大きさ等の指示に従って作成する。

図表を含め、上記の枠内に読みやすいように割りつける。

３．学術講演梗概集

提出期限までに提出された講演論文は、本会学術委員会における査読を経た後、「日本環境管理学会大会2019学術講演梗概集　ー第32回研究発表会ー」として、印刷・配布する。

学術講演梗概集は原則として白黒で印刷するが、著者が特に必要とする場合には、申し出により、カラー印刷とすることを認める場合がある。ただし、カラー印刷に要する費用については、全て著者の負担とする。

４．講演論文の構成

講演論文の構成は下記による。

① 題目と著者名
② キーワード（英語及び日本語）
③ 所属機関・学位（英語及び日本語・1頁目下欄）
④ 本文（本文は図・表・写真を含め、以下を標準とする）
　(1) まえがき
　(2) 本　　論
　(3) 結　　論
　(4) 謝　　辞
⑤ 注、引用文献、参考文献

５．論文の題目・著者名・キーワード

論文の題目は、論文の内容を的確に表現したものでなければならない。

共通する主題のもとで連続する数編を投稿する場合は、個々の論文には、その内容を具体的にあらわす題目を付し、共通の総主題は、副題（サブタイトル）として、その1、その2などとつける。

論文の題目は、12ポイントの大きさのゴチック体を使用して、中央に記載する。

次の行に、論文の英文題目を、10ポイントの大きさでCenturyを使用して、中央に記載する。

空白行を1行設けた次の行に、著者名を10ポイントの大きさのゴチック体を使用して、中央に記載する。

次の行に、著者の英文名称を、10ポイントの大きさでCenturyを使用して、中央に記載する。

空白行を1行設けた次の行に、イタリック体による“keyword :”の記載の後に3～5語程度の英文によるキーワードを、10ポイントの大きさでCenturyを使用して、中央に記載する。

次の行の中央に、10ポイントの大きさで、日本語によるキーワードをゴチック体を使用して記載する。

空白行を1行設けた次の行から、論文等の本文を記載する。

６．講演論文の本文

講演論文の本文は、A4版白紙の片面に、左右に20mm、上下に25mmの余白をとり、この枠内に9ポイントの大きさの明朝体の文字を用いて、28字×55行、2段組、3,080字（28×55×2）で作成する。

なお、章節の番号を除く本文中の英数字は、半角のCentury体、9ポイントを用いる。

講演論文の文章は、ひらがな混じり口語体、現代かなづかいとし、原則として当用漢字を用いる。

数字、アルファベット、ギリシャ文字、上付き、下付き、大文字、小文字などのまぎらわしいものは明確にすること。

図、表及び写真は、そのまま印刷に使用するので、完全なものを、文章に対応する箇所に張り付ける。

図、表及び写真には、それぞれ、図1、図2、……、表1、表2、……、写真1、写真2……などと通し番号を付ける。

図、表及び写真には、内容を的確に表現する標題を必ず付ける。また、図及び写真の標題は図及び写真の下部に、表の標題は表の上部に付ける

数式には、(1)、(2)、(3)などの通し番号を付ける。

注は、講演論文本文には含められないような詳細なコメント

＊〇〇工業大学・工学部　教授・工博
prof., Faculty of Engineering, 〇〇Institute of Technology, Dr. Eng

や意見を述べるもので、論文文章の後にまとめて掲載する。

引用文献は、引用順に番号を付し、注の後に番号順にまとめて掲載する。

参考文献は、引用文献の後に番号順にまとめて掲載する。文献番号は、文章中または図、表の引用箇所に[1)、2)]のように上付き文字を使用して明記する。

文献の記載方法は、次による。

a. 論文の場合
著者名：標題、誌名、Vol.、No.、発表年月、掲載頁の順とする。

b. 単行本の場合
著（編）者名：書名、発行所名、発行年月、掲載頁の順とする。

c. 著者名は、姓名で記す。ただし、著者が複数で多い場合、筆頭者以外は、ほか○名としてもよい。

d. 欧文の場合には、筆頭者は姓を先に記す。また、連名者は「et al.」で省略することもできる。

e. 一般に公表されていない文献、たとえば未発表の論文、簡易印刷（コピーしたものなど）の委員会報告や社内報告および私信などは、文献として扱わない。必要な場合には注として記載する。

図、表等の引用・転載にあたっては、著作権所有者の許可を取らなければならない。

文献の記載例

[引用文献]

1．申恵京，水庭千鶴子，近藤三雄：酸化チタンの光触媒反応を利用した観葉植物によるホルムアルデヒドの除去可能性．環境の管理．2007，No.63，p.17-22

2．Sheppard, S. D. et al. : On Becoming a 21st Century Engineer, Journal of Engineering Education, Vol.97, No.3, July 2008, pp.232-233

3．空気調和・衛生工学会編：京都議定書目標達成に向けて建築・都市エネルギーシステム新技術、空気調和・衛生工学会、2007年10月、p.62

[参考文献]

1．Lomborg, B. (Edited) : Global Crises, Global Solutions, Cambridge Univ. Press, Cambridge, UK, Aug. 2004

2．槌田　敦：弱者のための「エントロピー経済学」入門、ほたる出版、2007年9月

7．原稿の取り扱い

論文原稿の枠外右下に、頁数を鉛筆書きする。

論文原稿の送付にあたっては、汚れたり、折れたり、しわにならないように注意すること。

8．著作権

著者は、掲載された講演論文梗概の著作権の使用を本会に委託する。ただし、本会は、第三者から文献等の複製・引用・転載に関する許諾の要請があった場合には、原著者に連絡し許諾の確認を行う。

著者が、自らの講演論文梗概を自らの用途のために使用することについての制限はない。なお、掲載された梗概をそのまま他の著作物に転載する場合には、出版権に関わるので本会に申し出る。

本会は、編集出版権を所有する。

9．電子形態による公開

研究発表会に発表された講演論文梗概は、本会及び本会が許諾したウェブサイトから全ページが公開される。

研究発表会時の質疑応答については、副司会の記録に基づいた情報を整理したうえで公開する。

日本環境管理学会の本

建築・設備のあってはならない不完全性事例大全集

日本環境管理学会
建築と設備の不完全性事例研究小委員会［著］　オーム社［刊］

設計上の配慮不足や不十分な維持管理など、さまざまな原因によって生じた不具合を抱えたまま使用され続けている建築・設備。本学会「建築と設備の不完全性事例研究小委員会」では、そうした不適切な事例を長年にわたり調査・研究し、膨大な不完全性（べからず）事例を収集してきました。その中から１３０事例を厳選して収録したのが本書です。全編オールカラーで、すべての事例に不適切な状態の写真とその改善例（適切な事例）の写真２点を掲載しています。

「本当にこんな建物があるの？」「こんな欠陥・不具合を放置したままでいいの？」と驚くこと間違いなし。ビルの所有者や施工者、維持管理に関わるすべての方に読んでいただきたい本です。

【もくじ】
第１章　不完全性事例・建築編
　　屋根／天井／壁／柱／床／階段／建具／防災／外構／その他
第２章　不完全性事例・設備編
　　給排水／空調／電気／防災／搬送／その他
第３章　不完全性事例・分析編
　　用語の定義／不完全性事例がもたらす影響／不完全性事例の発生要因／不完全性事例の責任の所在／不完全性事例の症状

定価：2,592円（税込）
Ａ５判／１６８頁／２０１４年５月

論文提出にあたってのご注意　～原稿作成と提出に関する留意事項～

日本環境管理学会では、研究発表会でご発表いただく論文および現場報告について、１冊の梗概集にまとめ、会員および当日参加される方々に配布します。研究発表会は、できるだけ多くの方のご参加を促すため、参加費を安く設定しております。それに伴い、梗概集もできるだけ価格の安い印刷方法（フィルム等の加工をせず提出された論文等の実物を直接版下にして印刷する方法）を採用しています。そのため、原稿提出にあたって、以下のことをご注意くださいますようお願い申し上げます。

●ＰＤＦで提出される場合

※作成時の注意

（１）４～５面の執筆要領（印刷の場合）に準じて作成してください。
（２）ファイル形式は Adobe Reader で表示および印刷可能なＰＤＦファイルで提出してください。
（３）ファイルの容量は概ね２MB以下となるようにし、圧縮やセキュリティ設定はしないでください。
（４）文字化けを防ぐため、ＰＤＦ作成時にフォントの埋め込み処理を必ず行ってください。

※提出時の注意

（１）原稿のＰＤＦファイルは下記のＥメールアドレスまで提出してください。
　　Ｅメール　info@riemam.org
（２）提出は１件の発表申込に対し、ファイル１件のみを受け付けます。
（３）発表申込書は本学会ホームページからダウンロードし、ＰＤＦファイルにして提出してください。
（４）一度提出された発表申込書、原稿ＰＤＦは締め切り前であっても修正や差し替えは認めません。

●印刷物で提出される場合

※作成時の注意

提出原稿を直接版下にして印刷しますので、以下のことに留意してください。

次のものについては、文字が見えづらい、図表の濃淡がわかりにくいなど、十分な印刷仕上がりにならないことがございます。

◎写真　◎部分的に塗りつぶされた図　◎白黒でも濃淡の違いがはっきりしないもの

パソコンに接続されたプリンターによるプリントアウトと異なり、印刷物は基本的に網点によって色の濃淡を表現します。そのため、これらについては、印刷版下として用いる際、網状の点に分解する作業が別途必要になります。しかし、そのような処理を行っても、必ずしも明瞭なものが得られるとは限りません。

従って、写真以外については、可能な限りこのような形ではない表現を工夫してください。

１．カラーでのプリントは避けてください

カラーは、線の太さや色によっては、印刷版下にした場合に消滅してしまうものがあります。また、色の違いが直接的に白黒の差として現れるものでもありません。

従って、カラーを用いた原稿は避けてください。

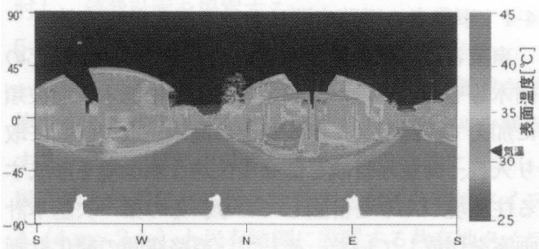


図４　幅員 6.0 m公道地点 B の全球熱画像

カラー原稿をモノクロ印刷したときのイメージ
（『環境の管理』68 号 25 頁参照）

２．文字部分への網かけは避けてください

表などの重要な部分に網かけを行うケースがありますが、印刷版下にした場合、文字と網かけとの間の濃淡の違いが少なくなり、文字がかえって見づらくなる場合があります。

従って、表中の文字や数値を強調したい場合には、例えば文字の大きさやフォントを変えるなど、網かけではない工夫をしてください。

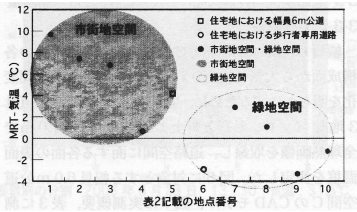
※円グラフ等で塗りつぶした部分に記入された文字や数値についても同様ですので、ご留意ください。

※ただし、枠を黒色で塗りつぶし白抜き文字にすることは可能です。

表２　熱放射環境の比較（他の市街地空間、緑地空間との比較）

		空間の特徴	天空率	舗装	樹木	MRT	気温	MRT-気温
市街地空間 2005年8月4日 11：14～13：00 （引用文献8）	1	商業ビル地区に位置する交差点	22	1	0	45.1	35.3	9.8
	2	開放的な駅前広場	40	1	0	41.3	33.9	7.4
	3	東西道路（4車線）の北側歩道	21	1	1	41.2	34.5	6.7
	4	東西道路（4車線）の南側歩道	22	1	1	34.1	33.6	0.5
住宅地空間（本研究）	5	住宅地における幅員６ｍ公道（地点Ｂ）	52	1	1	35.1	31.0	4.1
	6	住宅地における歩行者専用道路(地点Ａ)	49	1	2	28.9	31.8	-2.9
緑地空間 2005年7月27日 12：04～13：04 （引用文献8）	7	木の植えられた公開空地	13	1	2	35.8	33.1	2.7
	8	緑豊かな公園	17	1	2	34.9	33.9	1.0
	9	開放的な芝地	81	0	0	30.4	33.7	-3.3
	10	大きな樹冠の下の休憩スペース	13	1	2	32.0	30.8	-1.2

＊舗装　1：舗装　0：非舗装、　樹木　0：なし　1：有り　2：多

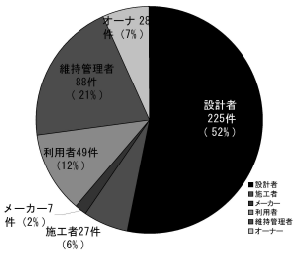


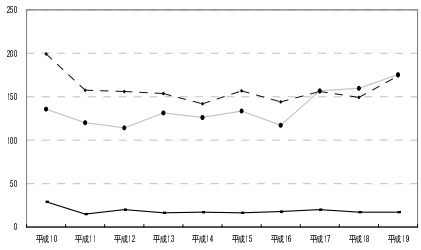
網かけによって文字が読みづらく、網の状態もまだら模様になってしまった例
（『環境の管理』68号23頁参照）

３．グラフ等の作成に関する留意事項

やむを得ず網かけを行わなければならない場合は、塗りつぶしではなく、できるだけ点や斜線等で領域の違いを明確にする工夫をお願いします。

また、表や折れ線グラフの場合は、細い線や破線を用いると、線自体が十分に印刷されない場合があります。また、折れ線のポイントもできるだけわかりやすい形を選択するようにしてください。





表やグラフを作成で、色の塗りつぶしや、細い線や色の薄い線を使用すると、文字や線が見えづらくなる場合があります。

※提出時の注意

（1）原稿は下記宛てにお送りください。その際、発表申込書を添付してください。

〒116-0013　東京都荒川区西日暮里5-26-7　クレセントビル４階
日本環境管理学会事務局

（2）発表申込書は８ページをコピーしてご使用ください。

（3）複数件数発表される方は、それぞれの原稿に発表申込書を添付し、一緒に送付してもかまいません。

（4）一度提出された発表申込書、原稿ＰＤＦは締め切り前であっても修正や差し替えは認めません。

NEWSLETTER RIEMAM (Research Institute of Environmental Management, Administration and Maintenance of JAPAN)
2020年 1 月号　第183号
発行＝日本環境管理学会
〒116-0013 東京都荒川区西日暮里5-26-7 クレセントビル４階
TEL：03-3802-7050　FAX：03-3802-7051
ホームページ：http://www.riemam.org　Ｅメール：info@riemam.org

日本環境管理学会　研究発表会　発表申込書

［この申込書もしくはそのコピーを発表論文に添付して提出してください］

送付先　〒116-0013　東京都荒川区西日暮里5-26-7 クレセントビル４階
TEL：03-3802-7050　FAX：03-3802-7051　E-mail：info@riemam.org

発表区分（☑を入れてください）

- ☐　講演論文発表
- ☐　若手研究発表セッション
- ☐　ビルメンの現場セッション　☐省エネルギーへの取組　☐清掃品質管理への取組
- ☐　ポスターセッション

論文題目	［和文］
発表内容に関するキーワード	［５語程度］
論文概要（150字程度）	

講演発表者	氏　名（ふりがな）	ローマ字（ヘボン式）	所　属

連絡先	勤務先　自宅 （いずかに○印を付ける）	（〒　　－　　）
	TEL　（　　）　内線 FAX　（　　）	Eメール

連名者	氏　名	ローマ字（ヘボン式）	所　属

事務局使用欄	受付番号		受付月日	月　日	確　認	